

建築分野で建築意匠設計をめざす

想定される具体的な進路・職種

建築意匠設計

建築学においては総合的な能力が必要とされるため、一級建築士受験資格を得るための必修科目でもある建築史、建築計画、建築環境、建築構造、建築材料の各概論を始めとするコア科目を履修することを前提とします。そのうえで、建築意匠設計をめざすための専門科目である複合施設デザイン、設計理論、都市計画、日本建築史、建築意匠Ⅰ、Ⅱなどを履修することで、建築意匠設計に必要な知識や方法を身に付けることができる履修モデルを設定しています。

● 選択科目 ● 選択必修科目 ● 必修科目

区分	授業科目			
	1年次	2年次	3年次	4年次
理工学部総合基礎部				
専門部門	理工学基礎科目	● 建築応用数学	● 数値計算法	
	建築思考系	● 建築史概論 ● 建築意匠Ⅰ ● 建築計画概論 ● 建築環境概論 ● 建築構造概論 ● 建築材料概論 ● 日本建築史 ● 建築意匠Ⅱ	● 近代建築史 ● 西洋建築史 ● 美術史 ● 景観美学 ● 生活環境論	
	建築デザイン系	● デザイン基礎Ⅰ ● 基本空間デザイン ● 建築計画Ⅰ ● デザイン基礎Ⅱ ● 住宅基礎デザイン	● 建築計画Ⅱ ● 文化施設デザイン ● 複合施設デザイン	● 設計理論
	建築工学デザイン系	● 建築材料 ● 建築工法	● 建築環境計画 ● 建築設備計画 ● コンクリート系構造 ● 金属系構造 ● 建築環境デザイン ● コンクリート系構造デザイン ● 金属系構造デザイン	
	建築工学基礎系	● 構造力学概論 ● 建築環境物理 ● 構造力学Ⅰ ● 建築環境工学	● 構造力学Ⅱ ● 建築材料実験 ● 構造力学Ⅲ ● 建築環境実験	
	建築社会システム系	● 都市計画	● 建築法規行政 ● 生活空間計画 ● 生産工学Ⅰ ● 生産工学Ⅱ	
	建築工学統合系	● ワークショップ	● インターンシップ ● 設計総合演習 ● ゼミナールⅠ ● ゼミナールⅡ	● 卒業研究・卒業制作

※履修モデルはあくまでも一例です。

※カリキュラムは変更となる場合があります。

※教員免許取得をめざす場合は、別途、教職課程の履修、学芸員資格取得をめざす場合は学芸員課程の履修が必要です。

※記載された科目のみでは卒業要件を満たしていない場合があります。履修の際は、カリキュラム表などで確認のうえ、履修をしてください。

建築分野で構造設計エンジニアをめざす

想定される具体的な進路・職種

建築構造設計

建築学においては総合的な能力が必要とされるため、一級建築士受験資格を得るための必修科目でもある建築史、建築計画、建築環境、建築構造、建築材料の各概論を始めとするコア科目を履修することを前提とします。そのうえで、構造設計エンジニアをめざすための専門科目である構造力学Ⅲ、Ⅳ、金属系構造デザイン、コンクリート系構造デザイン、耐震工学、都市防災などを履修することで、構造設計エンジニアに必要な知識や方法を身に付けることができる履修モデルを設定しています。

● 選択科目 ● 選択必修科目 ● 必修科目

区分	授業科目			
	1年次	2年次	3年次	4年次
理工学部総合基礎部門				
専門部門	理工学基礎科目	● 建築応用数学	● 数値計算法	
	建築思考系	● 建築史概論 ● 建築意匠Ⅰ ● 建築計画概論 ● 建築環境概論 ● 建築構造概論 ● 建築材料概論 ● 日本建築史 ● 建築意匠Ⅱ	● 近代建築史 ● 西洋建築史	
	建築デザイン系	● デザイン基礎Ⅰ ● 基本空間デザイン ● 建築計画Ⅰ ● デザイン基礎Ⅱ ● 住宅基礎デザイン	● 建築計画Ⅱ ● 文化施設デザイン ● 複合施設デザイン	
	建築工学デザイン系	● 建築材料 ● 建築工法	● 建築環境計画 ● 建築設備計画 ● コンクリート系構造 ● 金属系構造 ● 建築環境デザイン ● コンクリート系構造デザイン ● 金属系構造デザイン	● 建築構造計画
	建築工学基礎系	● 構造力学概論 ● 建築環境物理 ● 構造力学Ⅰ ● 建築環境工学	● 構造力学Ⅱ ● 建築材料実験 ● 構造力学Ⅲ ● 建築環境実験	● 耐震工学 ● 構造力学Ⅳ ● 都市防災
	建築社会システム系	● 都市計画	● 建築法規行政 ● 生活空間計画 ● 生産工学Ⅰ ● 生産工学Ⅱ	
	建築工学統合系	● ワークショップ	● インターンシップ ● 設計総合演習 ● ゼミナールⅠ ● ゼミナールⅡ	● 卒業研究・卒業制作

※履修モデルはあくまでも一例です。

※カリキュラムは変更となる場合があります。

※教員免許取得をめざす場合は、別途、教職課程の履修、学芸員資格取得をめざす場合は学芸員課程の履修が必要です。

※記載された科目のみでは卒業要件を満たしていない場合があります。履修の際は、カリキュラム表などで確認のうえ、履修をしてください。

建築分野で環境設計エンジニアをめざす

想定される具体的な進路・職種

建築設備設計

建築学においては総合的な能力が必要とされるため、一級建築士受験資格を得るための必修科目でもある建築史、建築計画、建築環境、建築構造、建築材料の各概論を始めとするコア科目を履修することを前提とします。そのうえで、環境設計エンジニアをめざすための専門科目である建築環境工学、建築環境実験、建築環境計画、建築設備計画などを履修することで、環境設計エンジニアに必要な知識や方法を身に付けることができる履修モデルを設定しています。

● 選択科目 ● 選択必修科目 ● 必修科目

区分	授業科目			
	1年次	2年次	3年次	4年次
理工学部総合基礎部門				
専門部門	理工学基礎科目	● 建築応用数学	● 数値計算法	
	建築思考系	● 建築史概論 ● 建築意匠 I ● 建築計画概論 ● 建築環境概論 ● 建築構造概論 ● 建築材料概論 ● 日本建築史 ● 建築意匠 II	● 近代建築史 ● 西洋建築史	
	建築デザイン系	● デザイン基礎 I ● 基本空間デザイン ● 建築計画 I ● デザイン基礎 II ● 住宅基礎デザイン	● 建築計画 II ● 文化施設デザイン ● 複合施設デザイン	
	建築工学デザイン系	● 建築材料 ● 建築工法	● 建築環境計画 ● 建築設備計画 ● コンクリート系構造 ● 金属系構造 ● 建築環境デザイン ● コンクリート系構造デザイン ● 金属系構造デザイン	● 建築設備デザイン
	建築工学基礎系	● 構造力学概論 ● 建築環境物理 ● 構造力学 I ● 建築環境工学	● 構造力学 II ● 建築材料実験 ● 構造力学 III ● 建築環境実験	
	建築社会システム系	● 都市計画	● 建築法規行政 ● 生活空間計画 ● 生産工学 I ● 生産工学 II	
	建築工学統合系	● ワークショップ	● インターンシップ ● 設計総合演習 ● ゼミナール I ● ゼミナール II	● 卒業研究・卒業制作

※履修モデルはあくまでも一例です。

※カリキュラムは変更となる場合があります。

※教員免許取得をめざす場合は、別途、教職課程の履修、学芸員資格取得をめざす場合は学芸員課程の履修が必要です。

※記載された科目のみでは卒業要件を満たしていない場合があります。履修の際は、カリキュラム表などで確認のうえ、履修をしてください。

建築分野で施工管理をめざす

想定される具体的な進路・職種

建築施工管理

建築学においては総合的な能力が必要とされるため、一級建築士受験資格を得るための必修科目でもある建築史、建築計画、建築環境、建築構造、建築材料の各概論を始めとするコア科目を履修することを前提とします。そのうえで、施工管理をめざすための専門科目である建築材料、建築材料実験、生産工学Ⅰ、Ⅱ、保存科学などを履修することで、施工管理上必要な知識や方法を身に付けることができる履修モデルを設定しています。

● 選択科目 ● 選択必修科目 ● 必修科目

区分	授業科目			
	1年次	2年次	3年次	4年次
理工学部総合基礎部門				
専門部門	理工学基礎科目	● 建築応用数学	● 数値計算法	
	建築思考系	● 建築史概論 ● 建築意匠Ⅰ ● 建築計画概論 ● 建築環境概論 ● 建築構造概論 ● 建築材料概論 ● 日本建築史 ● 建築意匠Ⅱ	● 近代建築史 ● 西洋建築史	
	建築デザイン系	● デザイン基礎Ⅰ ● 基本空間デザイン ● 建築計画Ⅰ ● デザイン基礎Ⅱ ● 住宅基礎デザイン	● 建築計画Ⅱ ● 文化施設デザイン ● 複合施設デザイン	
	建築工学デザイン系	● 建築材料 ● 建築工法	● 建築環境計画 ● 建築設備計画 ● コンクリート系構造 ● 金属系構造 ● 建築環境デザイン ● コンクリート系構造デザイン ● 金属系構造デザイン	
	建築工学基礎系	● 構造力学概論 ● 建築環境物理 ● 構造力学Ⅰ ● 建築環境工学	● 構造力学Ⅱ ● 建築材料実験 ● 構造力学Ⅲ ● 建築環境実験	
	建築社会システム系	● 都市計画	● 建築法規行政 ● 生活空間計画 ● 生産工学Ⅰ ● 生産工学Ⅱ	● 保存科学
	建築工学統合系	● ワークショップ	● インターンシップ ● 設計総合演習 ● ゼミナールⅠ ● ゼミナールⅡ	● 卒業研究・卒業制作

※履修モデルはあくまでも一例です。

※カリキュラムは変更となる場合があります。

※教員免許取得をめざす場合は、別途、教職課程の履修、学芸員資格取得をめざす場合は学芸員課程の履修が必要です。

※記載された科目のみでは卒業要件を満たしていない場合があります。履修の際は、カリキュラム表などで確認のうえ、履修をしてください。

建築関連分野をめざす

想定される具体的な進路・職種

公務員、不動産関連、インテリアデザイナー

建築学においては総合的な能力が必要とされるため、建築史、建築計画、建築環境、建築構造、建築材料の各概論を始めとするコア科目を履修することを前提とします。そのうえで、建築関連分野をめざすためには広範囲の知識が必要となるため、建築学の各分野の科目である建築設計系科目、建築構造系科目、建築環境系科目などを満遍なく履修することにより、建築関連分野に必要な総合的な知識や方法を身に付けることができる履修モデルを設定しています。

● 選択科目 ● 選択必修科目 ● 必修科目

区分	授業科目			
	1年次	2年次	3年次	4年次
理工学部総合基礎部門				
専門部門	理工学基礎科目	● 建築応用数学	● 数値計算法	
	建築思考系	● 建築史概論 ● 建築意匠Ⅰ ● 建築計画概論 ● 建築環境概論 ● 建築構造概論 ● 建築材料概論 ● 日本建築史 ● 建築意匠Ⅱ	● 近代建築史 ● 西洋建築史	
	建築デザイン系	● デザイン基礎Ⅰ ● 基本空間デザイン ● 建築計画Ⅰ ● デザイン基礎Ⅱ ● 住宅基礎デザイン	● 建築計画Ⅱ ● 文化施設デザイン ● 複合施設デザイン	
	建築工学デザイン系	● 建築材料 ● 建築工法	● 建築環境計画 ● 建築設備計画 ● コンクリート系構造 ● 金属系構造 ● 建築環境デザイン ● コンクリート系構造デザイン ● 金属系構造デザイン	
	建築工学基礎系	● 構造力学概論 ● 建築環境物理 ● 構造力学Ⅰ ● 建築環境工学	● 構造力学Ⅱ ● 建築材料実験 ● 構造力学Ⅲ ● 建築環境実験	
	建築社会システム系	● 都市計画	● 建築法規行政 ● 生活空間計画 ● 生産工学Ⅰ ● 生産工学Ⅱ	
	建築工学統合系	● ワークショップ	● インターンシップ ● 設計総合演習 ● ゼミナールⅠ ● ゼミナールⅡ	● 卒業研究・卒業制作

※履修モデルはあくまでも一例です。

※カリキュラムは変更となる場合があります。

※教員免許取得をめざす場合は、別途、教職課程の履修、学芸員資格取得をめざす場合は学芸員課程の履修が必要です。

※記載された科目のみでは卒業要件を満たしていない場合があります。履修の際は、カリキュラム表などで確認のうえ、履修をしてください。